

One-off sessions

オンタイムセッション ハンズオンセミナー（共催）

[HS1] 陰部清拭用ワイプシート 腹腔内圧測定用デバイス 便失禁ケアシステム 共催：株式会社メディコン

座長：道又元裕（Critical Care Research Institute 代表）

《リクエストフォーム》

<https://forms.office.com/Pages/ResponsePage.aspx?id=fObDIC2eAEimt2Ndl4ghZfZZeHnTo8dOgWgFejyp0pZUNFdKMTBDTIRFNUJKTDZEWTk1QTVOTDIRMC4u>

[HS1-01] [ハンズオンセミナー] 陰部清拭用ワイプシート「ピュレル®シュアステップ™ペリケア」の使用
方法

○露木 菜緒¹（1. Critical Care Research Institute）

[HS1-02] [ハンズオンセミナー] IAP上昇をどう察知していますか？ 腹腔内圧測定用デバイス「バード® IAPモニタリングデバイス」の使用
方法

○藤野 雄大¹（1. 聖マリアンナ医科大学病院 看護部）

[HS1-03] [ハンズオンセミナー] 便失禁ケアシステム「バード®ディグニシールド®」の使用
方法

○中山 麻実¹（1. 獨協医科大学病院 看護部）

オンタイムセッション ハンズオンセミナー（共催）

[HS2] 心肺蘇生後患者に起こりうる弊害回避と適切なアセスメント – 当院の使用経験を基にしたハンズオンセミナー – 共催：株式会社メディコン / アイ・エム・アイ株式会社

座長：川谷 陽子（愛知医科大学病院 看護部）

[HS2-01] [ハンズオンセミナー] 心肺蘇生後患者に起こりうる弊害回避と適切なアセスメント – 当院の使用経験を基にしたハンズオンセミナー –

○小松 克弘¹（1. 愛知医科大学病院 看護部）

オンタイムセッション ハンズオンセミナー（共催）

[HS8] 腹臥位療法 長き夜を安心して過ごすために 共催：パラマウントベッド株式会社

[HS8-01] [ハンズオンセミナー] 腹臥位療法 長き夜を安心して過ごすために

○堀部 達也¹、工藤 弦¹、古川 智美²、嶋田 正子²（1. 東京女子医科大学 リハビリテーション部、2. 東京女子医科大学病院 看護部）

オンタイムセッション ハンズオンセミナー（共催）

[HS1] 陰部清拭用ワイプシート 腹腔内圧測定用デバイス 便失禁ケアシステム 共催：株式会社メディコン

座長：道又元裕（Critical Care Research Institute 代表）

《リクエストフォーム》

<https://forms.office.com/Pages/ResponsePage.aspx?id=fObDIC2eAEimt2Ndl4ghZfZZeHnTo8dOgWgFejyp0pZUNFdKMTBDTIRFNUJKTDZEWTk1QTVOTDIRMC4u>

[HS1-01] [ハンズオンセミナー] 陰部清拭用ワイプシート「ピュレル[®]シュアステップTMペリケア」の使用方法

○露木 菜緒¹（1. Critical Care Research Institute）

[HS1-02] [ハンズオンセミナー] IAP上昇をどう察知していますか？ 腹腔内圧測定用デバイス「バード[®] IAPモニタリングデバイス」の使用方法

○藤野 雄大¹（1. 聖マリアンナ医科大学病院 看護部）

[HS1-03] [ハンズオンセミナー] 便失禁ケアシステム「バード[®]ディグニシールド[®]」の使用方法

○中山 麻実¹（1. 獨協医科大学病院 看護部）

オンタイムセッション ハンズオンセミナー（共催）

[HS1]陰部清拭用ワイプシート 腹腔内圧測定用デバイス 便失禁ケアシステム 共催：株式会社メディコン

座長：道又元裕（Critical Care Research Institute 代表）

参加申し込み

[HS1-01][ハンズオンセミナー] 陰部清拭用ワイプシート「ピュレル® シュアステップ™ ペリケア」の使用方法

○露木 菜緒¹ (1. Critical Care Research Institute)

キーワード：陰部清拭用ワイプ

陰部清拭用ワイプシートとは、従来の微温等とボディソープを使用した陰部洗浄方法に代わる「拭き取り」で陰部洗浄を行うためのワイプシートである。クリティカルケア領域では特に尿道留置カテーテルを使用している患者も多く、日常の看護ケアとして陰部洗浄を行う頻度は高いが、物品準備から処置、使用した物品の後片付けまでを考えると、その業務に多くの時間と労力が掛かっていると考えられる。また、カテーテル関連尿路感染症の観点からは洗浄水の飛沫や洗浄ボトルの使いまわしなど、注意すべき点は多い。加えて洗浄の処置後は皮膚保護のために保湿クリームの塗布も日常的に行われ、大きな看護負担となっている。本ハンズオンセミナーでは、1処置で1パッケージ使い切りのワイプシートを用いた陰部清拭方法について、その有用性を使用手順と製品特長を交えて紹介したい。

《リクエストフォーム》



オンタイムセッション ハンズオンセミナー（共催）

[HS1]陰部清拭用ワイプシート 腹腔内圧測定用デバイス 便失禁ケアシステム 共催：株式会社メディコン

座長：道又元裕（Critical Care Research Institute 代表）

参加申し込み

[HS1-02][ハンズオンセミナー] IAP上昇をどう察知していますか？ 腹腔内圧測定用デバイス「バード® IAPモニタリングデバイス」の使用方法

○藤野 雄大¹ (1. 聖マリアンナ医科大学病院 看護部)

キーワード：腹腔内圧測定、腹部コンパートメント症候群、IAP

ICUに入室するような重篤患者において、進行性の臓器障害がある場合、Intra-Abdominal-Hypertension（腹腔内圧上昇：以下 IAH）/Abdominal-Compartment-Syndrome（腹部コンパートメント症候群：以下 ACS）のリスク因子をスクリーニングすることが必要である。2つ以上リスク因子がある場合、Intra-Abdominal-Pressure（腹腔内圧：以下 IAP）を測定することが推奨されており、IAPは IAH/ACSの診断基準に位置づけられている。

クリティカルケア領域において、IAPモニタリングデバイスを必要とする患者は存在するが、医師からの指示がない、または使用する際に不安を感じる看護師がいるという声がある。IAPを測定することは、値を得るだけでなく、IAH/ACSリスク因子を考慮したフィジカルイグザミネーション、フィジカルアセスメントにつなげることが重要である。

本セミナーでは、実際の IAPモニタリングデバイスを用いた測定方法の動画を使用し、使用方法、注意点などについて説明する。また、事例より IAH/ACSのリスク因子についてディスカッションし、アルゴリズムを用いながら看護ケアについて検討する。

【到達目標】

- ・ IAPモニタリングデバイスの使用方法、注意点について理解でき、アセスメントアルゴリズムを実際の測定時に活用できる
- ・ 事例により IAH/ACSのリスク因子を考えることができる

《リクエストフォーム》



オンタイムセッション ハンズオンセミナー（共催）

[HS1]陰部清拭用ワイプシート 腹腔内圧測定用デバイス 便失禁ケアシステム 共催：株式会社メディコン

座長：道又元裕（Critical Care Research Institute 代表）

参加申し込み

[HS1-03][ハンズオンセミナー] 便失禁ケアシステム「バード®ディグニシールド®」の使用方法

○中山 麻実¹ (1. 獨協医科大学病院 看護部)

キーワード：便失禁ケアシステム

便失禁ケアシステムとは、直腸に挿入し、水様または泥状便の誘導及び排出に用いるチューブのことである。ベッド上での治療を要する成人患者に対し、便の皮膚接触を最小限にした便失禁管理を目的に使用する。直腸の中にバルンを留置することになるため、正しい知識がなく長期に使用する直腸穿孔などの合併症のリスクともなり得る。本ハンズオンセミナーでは、使用できる便の状態、適応症例の例、有用性について考え、デバイス使用中に起こりえる合併症を回避するための看護ケアや知っておくべき製品の特長について理解を深めることを目的としたいと考える。

《リクエストフォーム》



オンタイムセッション ハンズオンセミナー（共催）

[HS2] 心肺蘇生後患者に起こりうる弊害回避と適切なアセスメント – 当院
の使用経験を基にしたハンズオンセミナー – 共催：株式会社メ
ディコン/ アイ・エム・アイ株式会社

座長:川谷 陽子(愛知医科大学病院 看護部)

[HS2-01] [ハンズオンセミナー] 心肺蘇生後患者に起こりうる弊害回避と適切なアセス
メント
– 当院の使用経験を基にしたハンズオンセミナー –
○小松 克弘¹ (1. 愛知医科大学病院 看護部)

オンタイムセッション ハンズオンセミナー（共催）

[HS2]心肺蘇生後患者に起こりうる弊害回避と適切なアセスメント — 当院
の使用経験を基にしたハンズオンセミナー — 共催：株式会社メ
ディコン/ アイ・エム・アイ株式会社

座長:川谷 陽子(愛知医科大学病院 看護部)

参加申し込み

**[HS2-01][ハンズオンセミナー] 心肺蘇生後患者に起こりうる弊害回避と適
切なアセスメント**
— 当院の使用経験を基にしたハンズオンセミナー —

○小松 克弘¹ (1. 愛知医科大学病院 看護部)

キーワード：心肺蘇生後、体温管理、脳低温療法、ハンズオン、瞳孔、集中治療、フィジカルアセスメント

〈座長〉

川谷陽子 愛知医科大学病院 看護部 EICU 看護師長

〈演者〉

小松克弘 愛知医科大学病院 集中ケア認定看護師

心肺蘇生後患者に行う脳低温療法は、非施行群に比較して有意に転帰が改善すると報告され、多くの施設で導入されている。しかし、シバリングや血圧低下等の副作用も起こりやすく、看護師は対策を 考えて看護をしなければならぬ。 脳低温療法に使用するアークティックサンのジェルパッドは、患者の状態変化によりスキントラブルが発生しやすい為、予防は必須であり、当院では看護技術マニュアルを作成し予防に努めている。集中治療において瞳孔の観察は予後予測の重要な指標であると言われている。患者のフィジカルアセスメントの中で、ペンライトで瞳孔を観察するが、看護師個々の技術や主観により、数値の誤差が危惧さ れるため、近年は客観的指標となる瞳孔記録計の使用が推奨されている。

今回、脳低温療法中の様々な合併症予防を看護師の視点から考え、ジェルパッド装着のポイントや、フィジカルアセスメントに役立つ瞳孔記録計を用いてハンズオン形式でのセミナーとしたい。

《参加登録》



オンタイムセッション ハンズオンセミナー（共催）

[HS8] 腹臥位療法 長き夜を安心して過ごすために 共催：パラマウント ベッド株式会社

参加申し込み

[HS8-01] [ハンズオンセミナー] 腹臥位療法 長き夜を安心して過ごすために

○堀部 達也¹、工藤 弦¹、古川 智美²、嶋田 正子²（1. 東京女子医科大学 リハビリテーション
部、2. 東京女子医科大学病院 看護部）

オンタイムセッション ハンズオンセミナー（共催）

[HS8]腹臥位療法 長き夜を安心して過ごすために 共催：パラマウント ベッド株式会社

参加申し込み

[HS8-01][ハンズオンセミナー] 腹臥位療法 長き夜を安心して過ごすために

○堀部 達也¹、工藤 弦¹、古川 智美²、嶋田 正子² (1. 東京女子医科大学 リハビリテーション部、2. 東京女子医科大学病院 看護部)

キーワード：腹臥位、Prone position

COVID-19は200以上の国で発生している世界的なパンデミックであり、100万人以上の死亡が報告されている。

¹ 本邦でも2021年3月7日時点での陽性者数は436,687人、死亡者数は8000人を超えている。² 疫学的にはCOVID-19では重症患者の約20%がARDSを発症することが知られている。^{3,4}

重症呼吸不全患者へのVV-ECMOの導入や腹臥位療法について従来からのエビデンスとともに、近年報告されたSurviving Sepsis Campaign COVID-19のサブコミッティが報告したガイドライン⁵では中等症～重症のARDS患者に対する腹臥位療法が推奨され、ECMO下での腹臥位療法の報告も増加しており、今やニュースでECMOや腹臥位療法の映像が流れる時代になっている。しかし腹臥位への体位変換方法は、2000年に報告されたパンケーキメソッド⁶（2013年に報告されたPROSEVA Studyでも動画共有された方法⁷）のほか、各施設で様々な方法で試行錯誤しているのが現状ではないだろうか？

今回ECMOを含む身体挿入物が目視で確認が可能なイージーブローンを利用した腹臥位管理について、各種合併症を最小限に抑える方法や、そのメリットとデメリットも併せて共有したい。

《参加登録》



1. World Health Organization. WHO Coronavirus disease (COVID-19) dashboard. Available from: <https://covid19.who.int/>. (accessed 22 October, 2020).
2. 厚生労働省ホームページ https://www.mhlw.go.jp/stf/covid-19/kokunainohasseijoukyou.html#h2_1
3. Wu Z, McGoogan JM. Characteristics of and important lessons from the coronavirus disease 2019 (COVID-19) outbreak in China: Summary of a report of 72314 cases from the Chinese Center for Disease Control and Prevention. JAMA 2020; 323: 1239-42
4. Richardson S, Hirsch JS, Narasimhan M, et al. Presenting characteristics, comorbidities, and outcomes among 5700 subjects hospitalized with COVID-19 in the New York City area. JAMA 2020; 323: 2052-9
5. Alhazzani W, Møller MH, Arabi YM, et al. Surviving sepsis campaign: Guidelines on the management of critically ill adults with coronavirus disease 2019 (COVID-19). Intensive Care Med. 2020; 48:1-34
6. Balas MC. Prone positioning of patients with acute respiratory distress syndrome: applying research to practice. Crit Care Nurs 2000; 20:24-36.
7. <https://www.nejm.org/doi/10.1056/NEJMoa1214103>